

JA 湖東地域の地域営農システム作り

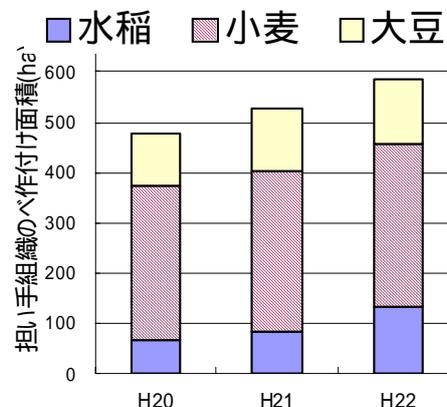
東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

JA 湖東担い手連絡協議会は、地域農業の担い手(組織)育成を目的に、JA 湖東管内の特定農業団体等の集落営農組織 34 団体と認定農業者で運営されている。構成員の延経営面積が年々拡大し(右図)、これまでに 3 集落営農法人が設立されるなど、担い手の育成が進んでいます。

農政の大きな転換期をむかえる中、地域の課題として、小麦、大豆の安定生産、水稻協業面積の拡大、法人化等による経営の継続性確保、多角化等があります。

これらに加え、今年度は組織間の連携強化も新たにテーマに加え支援を行いました。



【普及活動の成果】

1 集合研修

栽培技術の向上や営農組織間の情報交換、税務相談等、のべ 5 回の研修会を行いました。特に、食糧自給率向上に向け一層の品質・収量向上が求められる麦・大豆の栽培については、安定生産に不可欠な苗立ち・収量向上技術として、小麦では排水対策の徹底、大豆では畦立て同時播種技術についてそれぞれ普及、定着を図りました(写真)。



2 個別支援

法人化については、外部環境の影響を受け消極的な集落が多い中、新たに 2 集落の農事組合法人化を支援し、また、別の 2 集落でも年度内の合意形成に向けた検討を進めています。

既に法人化した集落に対しては、新たにナバナ栽培や餅加工等の試験的な取組をはじめ、後継者の確保・育成を進めるなど、継続性の高い組織運営が実施されるよう支援を行いました。

3 組織間の連携強化

管内には将来の担い手確保が困難な集落がある一方で、機械能力に余力のある組織もあることから、組織間の連携強化手法の先進事例調査や仕組みの検討、担い手組織との協議・調整を経て、11 月に大豆収穫作業の受委託を行う試験的な運用を始めました。具体的には生産組織から大豆収穫作業の申し込みを JA が受け、大豆コンバインを有する担い手組織等に再委託するもので、これにより、適期収穫による品質・収量の向上や、大豆コンバインの有効利用が図れます。今後も集落営農組織のレベルアップと組織間の連携強化を進め、力強い地域農業の担い手作りを支援していきたいと考えています。